QUALITY ASSURANCE
JIC
REGISTERED
ORGANIZATION
No.0430-ISO9001
ISO9001認証取得

molten®

INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。



- 日本リーグ唯一の公式試合球
- 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

日本ハンドボールリーグ第30回大会を迎えて



(財) 日本ハンドボール協会副会長　市原 則之（日本ハンドボールリーグ機構会長）

日本ハンドボールリーグは、ハンドボール競技の普及と競技力向上を目的に、1976年に発足し、本年めでたく30周年を迎えることができました。

これも偏に、全国各地の試合会場に足を運び、ご熱心に各チームを応援いただでいるサポーターの皆様、またリーグ運営を継続的にご支援いただいているスポンサー各社、そしてリーグ発展のため日夜ご努力を重ねられた先輩各位のご尽力の賜物と、心より感謝申し上げる次第であります。

第1回大会は、男女各8チーム、計16チームの参加によりスタートしました。その後年々参加チームが増え男女1・2部制を導入、第23回はリーグ史上最大の30チームの参加を得ることが出来ました。参加チームには全国各地で熱戦を展開して、リーグ発足の目的の一つであるハンドボール競技の普及に多大なる貢献をしていただきました。

その後、高度成長を続けた日本経済は、バブル崩壊、急激な国際化市場経済への移行によりかつて経験のない構造的不況に見舞われ、その余波で各企業はスポーツからの撤退を余儀なくされました。そして現在、男子11チーム・女子5チームとなり、日本リーグ発足時と同じ16チームにまで減少いたしました。

こうした経済不況と変革するスポーツ界の中にあっても、企業チームとして存続或いは地域密着型チームへの移行等、それぞれの立場で生き残りをかけて努力を重ねられた現存16チームに対し、甚大なる敬意と心からの感謝を申し上げさせていただきます。

幸い日本経済は昨今明るい兆しが見られ、スポーツを取り巻く状況も好転してまいりました。日本リーグは更なるハンドボール競技発展のため、日本ハンドボール界悲願のオリンピック出場権獲得のため、試合会場におけるファンサービスの徹底等諸施策を実施し、リーグの活性化に努めてまいります。

2003年度からはトップリーグ運営支援として国から多額の助成をいただいております。この浄財を有効に活用し、ＧＭ研修会や東アジアクラブ選手権へのチーム派遣、オールスター戦開催、教育リーグ開催、ＮＴＳとの連携企画といった幾多のリーグ活性化プランを推進しております。

年間のチャンピオンを決めるプレーオフ大会は年々活況をおび、各方面より幅広く著名人のご来場もいただいております。今後も種々の趣向をこらした運営で集客の効果をあげ、何時でも会場がサポーターで溢れるようにと努力を重ねてまいります。

ハンドボール競技の普及・振興並びに国際競技力向上と、今後ますます日本リーグの果たす役割は大きくなります。30周年の記念大会を糧として、日本ハンドボール関係者、リーグ関係者が一丸となり更なる発展を目指し邁進努力して参ります。愛好者の皆様のご声援をどうか宜しくお願いします。

第10回ヒロシマ国際ハンドボール大会速報

男子ナショナル、北京に向けて金 好発進

平成17年7月22日（金）～24日（日）、広島市東区スポーツセンターにおいて、エストニア（チョコレートボーイズ）、チャイニーズタイペイ、韓国（コロサ）を招いての第10回ヒロシマ国際ハンドボール大会が開催された。日本チームは全勝で優勝を飾り、宿願の北京オリンピックに向けての好発進となった。最優秀選手には東慶一（湧永製薬）、ベストセブンには坪根敏宏（湧永製薬）、宮崎大輔（大崎電気）、松林克明（大同特殊鋼）、豊田賢治（大崎電気）、ベストディフェンダー賞、永島英明（大崎電気）が選ばれた。今号では大会の速報を写真で、詳しい大会の様子は次号、早川文司氏のレポートでお伝えします。併せて、会期中に行われましたコーチ・レフェリーシンポジウム報告とサッカー国際審判員、山西博文氏の講演要旨は次号に掲載致します。



大会前会場では小学生対象のハンドボールスクールが開催された（試合の審判をするメイプルレッズ、イム監督）



スクールのちびっ子：ハンドボールを持ってニコニコ



ハーフタイムには地元の方による「よさこい踊り」が披露された



広島メイプルレッズとハンドボールスクール（「東浄小学校」「広銀の森スクール」）の皆さん



試合終了後開催された選手のサイン会には多くのファンが殺到した



試合前全日本の選手と共に



神戸オリンピック予選で活躍した情報分析班は今大会でも活躍した



大会会期中様々な会議が開催された
（写真は競技者育成技術委員会の様子）



大会に併せてコーチ・レフェリーシンポジウムが開催された
（左より島田常務理事、山西氏、大西専務理事、木野常務理事）



優勝を報告する松井監督



最終日、韓国戦勝利を全員で観客席のファンに報告



優勝カップを山下副会長から受け取る東キャプテン



金メダルを胸に掛け、北京への飛躍を誓う



お世話になった広島県協会の皆様、中央は広島県協会会長 濱脇純一氏



元湧永製薬のプラマニス氏（エストニア：左端）も旧交を温めた

第1回 アジアユース選手権大会（世界選手権予選） 第2報

世界ユース大会の予選を兼ねた、第1回アジアユース大会が2005年6月26日（日）～7月2日（土）、タイ（バンコック：ニミブトル体育館）にて男女同時開催されました。女子は2位でユース世界選手権大会の出場権獲得、男子は残念ながら3位で出場権を逃しました。今号では団長として参加した蒲生強化本部長のコメント、審判員として参加した永春・安田氏のレポート、大会結果を掲載致します。

第1回男女アジアユース選手権大会報告



ユース・ジュニア世代のタレント発掘と育成の重要性

団長 蒲生晴明（常務理事、強化本部長、中部大学）

国際ハンドボール連盟（IHF）は、2005年からユース世代の世界選手権を開催することになった。男子は19歳以下、女子は18歳以下のカテゴリーである。今回、アジアハンドボール連盟は第1回ユースアジア選手権兼アジア予選（世界選手権出場国数は、男子2カ国、女子3カ国）を、バンコク市内で開催した。男子は、今年8月にカタールでの世界選手権開催が決定していたので、19歳以下で代表選手を選出し臨んだ。女子は、来年カナダで世界選手権が開催されるので、17歳以下で臨んだ。この世代での国際大会出場は大変意義深く、若年層時代に世界を経験できることが、日本代表選手になった際に大きなバックボーンになってくるためである。また、この時期には技術戦術が急激に成長し、将来の基礎となるため、ぜひとも良い成功経験が必要であると考えられる。このような目的を持って、チャレンジした大会であった。

結果は、女子が準優勝（世界選手権大会出場権獲得）・男子が3位（世界選手権大会出場権獲得ならず）となった。女子は、安定した戦いぶりで最終日を待たずに出場権を獲得。決勝戦では、韓国と終始3～5点差で渡り合ったが、最終的に39－32の7点差での準優勝であった。大きな差ではなく、今後充分に期待ができる。男子は、予選Bグループで1位となったが、Aグループ2位の韓国と準決勝で対戦し、30－32と惜しくも敗戦。充分手応えのあるゲームであって、出場権は獲得できなかったが、来年日本開催のジュニアアジア予選に充分期待できる。3位決定戦では、再びバーレーンに勝利して3位になり、ジュニア世代とあわせて久し振りの表彰台であった。

今回、男子は中東勢や中国が、女子は中国やカザフスタンなどが参加しなかった。このような情勢の中で、女子は韓国が優勝したものの競技力の伸び悩みと地元タイ（デンマークから専属コーチ）の急成長（世界選手権出場権獲得）が目立った。男子は、イランが出場権を獲得し、バーレーンも同様に競技力は安定していた。いずれにしても、日本選手の競技力向上強化は不可欠である。

今後は、ユース・ジュニア世代のタレント発掘育成について、NTSを充分に活用して、コーチ・指導者の皆さんと共にアンダーチームの強化を実施していく所存である。今回参加していただいた選手所属の関係皆様方に、深く感謝いたし、報告とさせていただきます。

第1回男女アジアユース選手権大会審判報告



国際大会、今後日本での活動・役割を感じた1週間

国際審判員 永春文義（写真左）　国際審判員 安田　寛（写真右）

はじめに

2月22日、アジアハンドボール連盟（AHF）から標記大会に指名の連絡がありました。十分な準備期間があったため、職場・都の教育委員会との調整もうまく行き、初めての国際大会に参加することが出来ました。日程は、6月25日がテクニカルミーティング、クーパーテスト（12分間で2400m以上）、ルールテスト、ミニコース、6月26日～7月2日までが競技とされていましたが、実際にはミニコースもルールテストも行われず、先日サッカーのWC予選で無観客試合を行ったスタジアムでのクーパーテストだけが行われました。

ミーティングでの伝達事項

（6月26日）

1）この大会は単なる大会でなく、上につなげる大会。終了したらすぐにテクニカルメンバーと短いミーティングを持つように。

2）スタンドから観戦するときは、レフェリー団はいっしょに見ること。判定について、客席から首を傾げたり、ジェスチャーしたりしては絶対いけない。

3）AHF のレフェリーだと言うことを意識せよ。



チーム提供写真



チーム提供写真

(6 月 27 日)

1）試合展開が早くなっているポイント修正に細かくなりすぎてはいけない。ポイントに立つのは良いが、選手の邪魔をしている。ポイント後方に行き、示せば良い。

2）演技：シュミレーションの排除（ベンチも含む）。トレーナーのアピールでステップが変わっている。ベンチ管理はテクニカルデレゲート（TD）も手伝うが、あくまでレフェリーの任務であることを心がけよ。チャージのアピール→アドバンテージ→注意→繰り返しは段階罰。負傷したプレーヤーの扱い（遅延と見なされ 2 分間退場が 2 例有り）。

3）3m の修正、フリースローポジションを修正したときは、必ず笛の合図から。

4）アドバンテージは 4 ステップで終了。

5）開始 10 分から 15 分で基準をしめせ。それ以降の時間帯はイエローカードからスタートせよ（注意は不要）。ただし、程度によっては一発退場も使わなければ、段階罰にはならない。

6）タイムアウト、再開のときは必ずオフィシャルテーブルを見て合図せよ。

7）「3m 下がれ」はチームに 1 回注意したら、2 回目からは罰則を適用せよ。

8）競技場に入ったら全てを確認せよ。ベンチ入りメンバーの確認も任せきりはいけない。

9）顔をたたく、後ろから腕が掛かる→ 程度が軽くても、最低限 2 分間退場を出せ。

10）失格・追放に値するファールがあっても、パスが出ているときは結果を待て。レフェリーはボールの行方を確定するのが一番大切な役目。

審判長：タワコリ氏からのアドバイス

1）ゲーム開始の基準作りが良くなかった。注意ではなく即イエローカードや一発退場をうまく使って基準を作れ。

2）演技に対する判定が良くない。中東勢は顔に当たってもいないのに大げさにアクションすることもある。

3）役割分担は OK（GR の目の前は GR が処理）。ただし、基本原則は忘れるな。

4）7mT をジャッジするときは、7m ラインに歩み寄れ（走らなくて良い）。

5）ランニングスローオフについて：基本的には×、ただし確実にセンターライン上に stand していると確認できれば笛を吹いても良いだろう。

6）年齢的な話、レフェリーコースについて。

その他

★中東の笛

以前から話しには聞いていた「中東の笛」。今回その一部を目の当たりにしました。予選リーグ韓国対イラン。ヨルダンの IHF レフェリーが担当した試合は、どう頑張っても韓国に勝ちは無い試合でした。後半半ばから、韓国の DF はボールカットのたびに退場。ノーマークのシュートはオーバーステップ。一緒に見ていたカタールのレフェリーも「やり過ぎだ」と大笑いしていました。なんとか同点にしたものの、最後にイランのノータイムフリースロー。壁の一番端の左利きのプレーヤーが、大きく回転しながら全くポイントから違う場所で放ったシュートがゴールイン。韓国の団長を務めるチョン先生もコートに飛び込み猛抗議をしましたが、全く取り合われず試合終了。見ていた誰もが（極東の人間は）納得いかない試合でした。

しかし、中東の人間は全く悪びれる様子は有りません。終了後は笑顔で我々の前に現われ、平然と試合を振り返ります。スポーツと言うものに対する認識…、それが根本的に違うのではないか？　そう思わずにいられない 1 日でした。

イランのレフェリーは、すべて女子のゲームを担当。特に地元タイの試合、得失点差のかかったタイペイ対インドの試合は国際試合とは到底言いがたいものでした。タイペイの監督は、後半初めにはアピールする気力すら失っていました。

初日のゲームを見ていた日本の選手の何人かから、「こんなんで良いんですか？」と言われました。良い訳はありません。しかし、我々の力ではどうしようもありません。日本チームが上位にいるから…いやそれだけではないのでしょう。与えられる試合はどうでも良いようなもの。評価もされません。これから国際審判員として活動をしていく中で、良い笛を吹き日本のレフェリーの評価を上げていくだけでなく、このアジアの現状を何とかしていかなければならない…。いろいろと考えさせられる大会でした。

★レフェリーの年齢構成について

タワコリ氏との話しの中で、我々の年齢を聞かれました。31、33 というと、今年度末あるいは来年極東でレフェリーコースを予定しているが（香港の模様）、そろそろラストチャンスだから精一杯努力するようにという話しをされました。今回参加しているイランの AHF は 25 歳と 26 歳、カタ

ールは24歳と25歳。ヤングレフェリープロジェクトという話しもありましたが、世界はまさにそういう流れに移っているようです。中国でも、次回のコースに参加するのは、昨年我々がお世話になったとき、まだ学生で英語の通訳をしていた20代前半のレフェリーだとのこと。レフェリングの技術ではなく、そういう基準で国際審判を育成していく方針のようです。

いままで、我々は「後輩へのアドバイス」といわれても、自分達はまだまだそんな…という思いを持っていました。しかし、我々も含めここにいる日本のトップレフェリー皆が、地元で若いレフェリーを育成していくということをしていかなければ、日本からアジアにレフェリーを出して行けなくなってしまう。そうなると、今回若い将来有望な選手達が目の当たりにしたアジアの現状を、打ち砕くことも出来なくなってしまう。そう言う思いを抱いて帰国しました。まだまだ未熟で、国内ですら信頼を勝ち取れていない我々ですが、自らを高めることはもちろん、日本のハンドボールのために出来ることをやらねばという思いを今強く持っています。非常に生意気な意見では有りますが、どうか皆様に理解していただけたらという思いです。

終わりに

残念ながら男子は代表権を取れず、我々も思うようなレフェリングを出来ないままの少し不満の残る遠征でしたが、学ぶべきものは非常に多い一週間でした。どうして自分達はレフェリーをするのか？　日本のハンドボールのためにすべきことは何なのか？　そういう思いを持ったのも初めてでした。バンコクで学んだことをこれからの活動で必ず活かしていきたいと思います。最後に今大会に参加するにあたり多大なるご尽力をいただいた日本ハンドボール協会島田房二審判部長はじめとする協会関係者の皆様、現地でお世話になりました蒲生強化本部長、男子玉村監督・滝川コーチ、女子繁田監督・楠本コーチ、スタッフの皆様、そして大会前にいろいろと温かいアドバイスを下さった諸先輩方後輩諸氏にこの場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

第1回アジアユース選手権大会結果と日本チームの戦い

◆男子

■6月26日（日）

日　本　35（17-16, 18-17）33　バーレーン

立ち上がりから互角のゲームになった初戦。日本は東長濱、熊谷、染谷らの得点で食らいつく。3点ビハインドになってからも太田のゲームメイクから東長濱、染谷が得点をあげ、守っては GK 甲斐の好セーブで前半を1点リード。後半立ち上がりから常に4点差をキープし、太田・東長濱の個人技で相手を突き放しにかかる。終盤1点差までつめよられたが、1点リードの場面でタイムアウト。野村のサイドシュートが決まり、2点差でタイムアップとなった。タフに戦った選手に会場から大きな拍手が送られた。

【得点】　東長濱9，染谷・小川・熊谷5，太田4，森田3，野村・棚原2

チャイニーズタイペイ　34―19　イ　ン　ド
タ　　イ　37―17　マ　カ　オ
イ　ラ　ン　34―33　韓　　国

■6月27日（月）

日　本　36（16-7, 20-6）13　インド

予選リーグ第2戦、立ち上がり4―0と好スタートをきった日本だが、相手の長い攻撃を守りきり速攻で確実に加点したいところを、ミスが出て思うように得点ができない。恒見、安藤らのスピードプレーが決まりだし、相手を突き放し前半を終了。後半に入ってもディフェンスの手をゆるめず、出場した選手全員が得点をあげるなど、いいムードで戦いを終えた。昨日のタフなゲームの後で多少疲れが見えたものの、安定感のあるディフェンスから組織だった速攻、攻撃もよく決まり、明日の予選リーグ最終戦・チャイニーズタイペイ戦に向けて全力を尽くしたい。

【得点】　棚原6，安藤5，熊谷・谷村4，小川・石戸・恒見3，染谷・野村・東長濱2，森田・森1

バーレーン　28―25　チャイニーズタイペイ
韓　　国　65―8　マ　カ　オ
イ　ラ　ン　38―19　タ　　イ

■6月28日（火）

日　本　44（23-19, 21-17）36　チャイニーズタイペイ

立ち上がり互角のスタートをきった日本であるが、相手のミスやクイックスタートから染谷のスピードプレーが連続して決まり、森田のカットイン、小川のポストなどで優位にゲームを運び前半をリード。後半に入っても染谷の素晴らしいスピードプレー、東長濱、熊谷のバックプレーヤー陣が気迫のゴールをあげ、守っても田中、甲斐の好セーブを中心に選手全員が必死に相手の攻撃を防ぎ、8点差で快勝した。オフェンスでは相手のプレスディフェンスをよく攻め、守っては体を張ったディフェンスでチーム一丸となって戦った。Bグループを全勝で勝ち抜き、次ぎはいよいよ韓国戦。この試合に勝ち世界への切符をつかめるよう全力を尽くしたい。

【得点】　染谷・東長濱9，小川7，熊谷6，森田・野村4，恒見2，太田・安藤・石戸1

バーレーン　38―27　イ　ン　ド
イ　ラ　ン　57―15　マ　カ　オ
韓　　国　53―28　タ　　イ

■ 6月30日（木）

〈準決勝〉日　本 30（16-17, 14-15）32 韓　国

立ち上がりから互角の試合となった準決勝。プレスディフェンスに対し日本は東長濱、棚原がよく攻め、2点リードで前半の終盤を迎えるものの、ノーマークシュートを連続して外し相手にペースを握られ前半を16―17の1点差で折り返す。後半も2点差で食らいついていくものの、追いつくチャンスにイージーシュートを外し、逆に相手の速攻をくらい4点差で終盤を迎える。5-1ディフェンスに切り替え相手のオーバーステップ等のミスを誘い速攻で追いかけるものの、最大5点差までついた差を縮めることができず2点差で敗退した。要所でのイージーミスでゲームの流れをうまくつかむことができず残念な結果となった。

【得点】 東長濱 12，棚原 7，太田 5，小川・熊谷 3

イ　ラ　ン 37―34 バーレーン

■ 7月1日（金）

〈5－6位決定戦〉チャイニーズタイペイ 45―28 タ　イ

〈男子7－8位決定戦〉イ　ン　ド 32―21 マ　カ　オ

■ 7月2日（土）

〈3位決定〉日　本 29（12-13, 17-13）26 バーレーン

立ち上がりから一進一退の攻防が続く。お互い予選リーグで一度戦っている相手ということで守り合いが続き、日本は前半、東長濱・染谷らでバーレーンを突き放しにかかるが、ミスを速攻につなげられ思うように点差を広げることができず、逆に相手のバックプレーヤーのシュートを受け前半を1点ビハインドで折り返す。後半に入る前に何としても3位に入賞することを再確認した日本は、染谷・東長濱・太田・野村の連続得点を含め、GK甲斐の体を張ったキーピングでバーレーンに2連勝した。残念ながら世界大会の出場権は得られなかったが、4勝1敗と上位2チームと同率で戦うことができ、このメンバーを中心に来年のアジアジュニア大会に向け最大限の努力をしたい。

【得点】 東長濱 8，染谷・熊谷 5，野村 4，太田 3，小川・森田 2

〈決勝戦〉韓　国 38―31 イ　ラ　ン

◆女　子

■ 6月26日（日）

タ　イ 29―15 イ　ン　ド

韓　国 30―20 チャイニーズタイペイ

■ 6月27日（月）

日　本 29（15-11, 14-6）17 チャイニーズタイペイ

U-18、世界選手権挑戦への第一歩。開始1分、ミドルでチャイニーズタイペイに先制点を奪われる。しかし日本は3分、山野の7mTをきっかけに石野、樽井が速攻で3連取。その後もすばやいディフェンスのつめから相手のミスを誘い。10分過ぎで7―2とリード。しかしタイペイも個人技で加点し、前半15―11で折り返す。

後半も約束の「守って速攻」で日本らしいゲーム運びで国際大会1勝を飾った。

【得点】 樽井 7，後藤 5，高良 4，山上・山野・石野 3，作内 2，岡本真・西銘 1

韓　国 29―20 タ　イ

■ 6月28日（火）

日　本 43（21-7, 22-7）14 イ　ン　ド

10分過ぎまでレフェリーの判定に泣かされたものの、時間の経過とともに単調な攻めのインドに対し、シュートカット、ルーズボール、ボールカット等がリズムよく絡み、速攻で加点。後半もディフェンスの手を緩めず、全員得点で圧勝した。

【得点】 作内 7，後藤 6，山上・石野 5，岡本藍・山野・西銘 4，荒金 3，高良 2，中池・岡本真・樽井 1

■ 6月29日（水）

韓　国 46―16 イ　ン　ド

タ　イ 19―19 チャイニーズタイペイ

●上記2試合の結果により、日本の3位以内が確定したため、2006年第1回女子世界ユース大会出場権獲得。

■ 6月30日（木）

日　本 31（19-10, 12-16）26 タ　イ

すでにユース世界大会の出場権を獲得している日本。タイとは格段の差があるが、タイの地元である事、タイが世界ユース出場権を得るために得失点の絡んだ試合である事等、日本の立場は不利であった。それでもスタートから若さを爆発させ、持ち前の速攻で19―10で折り返す。

心配していた通り、後半、エリア際のプレーは全て7mTと退場をとられ、じわじわと詰めよられ、終わってみれば5点差。2人のGKも再三ナイスセーブで頑張った。「地元の笛」で後味悪いゲームであった。

【得点】 石野 10，後藤 6，作内 5，高良 4，山野・樽井 2，岡本真・荒金 1

■ 7月1日（金）

日　本 32（15-17, 17-22）39 韓　国

ユース世界大会出場を決めているとはいえ「優勝」を目指し打倒・韓国にチャレンジした。まず1対1を守りロングを打たせ、速攻に持ち込む作戦だったがうまくいかず、セット攻撃も相手のプレスディフェンスに思うように攻めることができず、イージーミスが続き、悪い流れは最後まで変えることができなかった。

【得点】 石野 11，作内 6，後藤・山野 5，高良 3，樽井・戎野 1

チャイニーズタイペイ 30―27 イ　ン　ド

国際ハンドボール連盟（IHF）は2005年8月1日から新競技規則を施行しています。日本国内においても同じく8月1日から新ルールを適用して競技を実施しています。競技規則変更の概要につきましては、これまで各都道府県審判部や連盟審判部、機関誌、日本協会ホームページ等を通じて情報を公開してきました。7月上旬になって、競技規則の変更内容をより正しく理解するために、IHFは全変更項目に関する解説文書を世界各国に送付しました。この文書を一度にすべて掲載するには誌面が足りないため、今号から分載することになりました。なお、平成17年版競技規則書につきましては現在発行準備中です。



競技規則研究専門委員会委員長　岸本 光夫
（医学博士：大津市民病院 病理科診療部長 臨床検査部診療部長兼務）

平成17年7月27日

2005年 競技規則変更：各項目の解説①

（財）日本ハンドボール協会 競技本部　審判部・競技運営部

レフェリーは3欄すべてに必ず目を通すこと。マッチバイザーとタイムキーパー・スコアラーは、レフェリーの欄にも目を通すこと。（※ただし、全項目に3欄あるとは限らない）

1. 攻撃側プレーヤーが相手のゴールエリアに侵入した（またはゴールエリアの床についているボールに触れた）ためにレフェリーが笛を吹いた場合、相手の（フリースローではなく）ゴールキーパースローによって競技を再開する。

コーチとプレーヤー

ゴールキーパーは以前と逆の対処をしなければならない。ボールがゴールエリア内にあれば、直ちにスローをすることができる。ボールがゴールエリア外にあれば、ゴールエリアにいるゴールキーパーに戻さなければならない。

ゴールキーパースローに際して、相手はゴールエリアラインのすぐ外側に立ってもよいが、ラインの中に入ってボールをカットしようとしてはならない。

レフェリー

両チームのプレーヤーにボールの所持が入れ代わったことが分かるよう、「ゴールキーパースローのジェスチャー」を用いて明瞭に指示しなければならない。

素早く行おうとしているスローを相手プレーヤーが妨害しないよう、その行動を注意深く監視する。

デレゲートとオフィシャル席

レフェリーの笛の後は、ゴールキーパーのチームがボールを所持することになり、ゴールキーパースローが完了するまで競技の中断中である。

2. ボールが天井（またはコート上方の付属設備）に当たった場合、最後にボールに触れなかったチームの（フリースローではなく）スローインによって競技を再開する。ボールが天井に当たった位置から近い方のサイドライン上の最も近い地点よりスローを行う。

コーチとプレーヤー

近い方のサイドラインへ向かい、ボールの当たった位置と平行な位置と思われる場所から、通常どおりスローインを行う。レフェリーの笛の合図を待たない。

レフェリー

スローインのジェスチャーを示し、直ちに正しい方のサイドラインとおよその場所を指す。正確な位置の決定はまず不可能なので、大きく隔たっていたり、不当に有利になったりしない限りは、柔軟に対応すべきであることを十分に理解する。

デレゲートとオフィシャル席

まさにその瞬間にチームタイムアウトを請求された場合には、どちらのチームがスローインを得たのかについて注意を払う。

3. 7ｍスローを判定したとき、タイムアウトを必ずしも取る必要はない。タイムアウトを取るかどうかは、その通常の判断基準に従ったレフェリーの裁量に委ねられる。

コーチとプレーヤー

自チームが「急いでいる」場合、タイムアウトをあてにするのではなく、可及的速やかにスローの準備をする。反対に、タイムアウトを取って欲しくない場合、遅延行為をしようと企んではならない。従来どおり、スローの準備ができた後、ゴールキーパーの交代は認められない。

レフェリー

タイムアウトを取ると決定する前に、得点状況と残りの競技時間を、そして遅延の原因はどちらのチームにあるのかについても、考慮する。スローを行うプレーヤーを指名するのが遅い場合やゴールキーパーが交代する場合、通常はタイムアウトを取るべきである。迷った場合はタイムアウトを取る（このようにしても競技規則に矛盾しない）。コートレフェリーは「T字」のジェスチャーでオフィシャル席に合図をしなければならない。

デレゲートとオフィシャル席

7ｍスローの判定があったとき、常に時計が止まると思い込まないよう留意する。レフェリーの出すタイムアウトの合図に注意しながら待機する。

4. 失格の対象となるのは粗暴で激烈な違反だけではないことを、競技規則に注釈として加筆した。タイミングが悪ければ、軽微なプッシングも極めて危険な行為になりえるということである。すなわち、プレーヤーがジャンプしているときや勢いよく走っているときなど、何をされるか予見できない、あるいは無防備な状態にあるときである。

コーチとプレーヤー

相手がこのように自己防衛できない状態にあるときは、怪我につながるような（無意識に押したりぶつかったりする）違反を慎む。たとえそのような行為を捨てばちになってしなければならないと思っても、無防備な相手に対して押したり

ぶつかったりして、はずみを加えるとどのような結果になるかをよく考えて欲しい。

レフェリー

「重大な」違反や激突だけに注目する風潮から離脱しなければならない。ゴールエリア上をジャンプしているとき、あるいは速攻の最中によくあるケースであるが、軽微な身体接触または「死角」からの身体接触によって、自己防衛できない状態にあるプレーヤーが危険なめに遭う状況をよく目の当たりにする。押したりぶつかったりすると特に危険であろう。このような場合には、決してレッドカードをためらってはならない。

5. 競技の最後の 1 分間で、まさにチームの求むべき得点状況になったとき（1 点リード、同点、求むべき得失点差）、いかにスポーツマンシップに反しようとも、判定結果を意に介さずにあらゆる手段を講じようとし、その得点状況を固守しようとするであろう。その中には、何らかの形で妨害行為をし、相手にシュートできる状態まで持ち込ませないように違反する場合がある。このような違反により失格となった場合、主催連盟は重い罰則・出場停止を試合後に科さなければならない事例に相当するので、レフェリーはこの失格について報告をする。

コーチとプレーヤー

出場停止の危険性を考えれば、もっと「激しさ」を抑えた方法によって、相手がシュートを打つチャンスやフリーの味方にパスを出すチャンスの芽を摘むようにしなければならない。

レフェリー

レフェリーは得点状況と残りの競技時間に気を配らなければならない。なお、妨害された明らかな得点チャンスの補償として 7 m スローを判定した場合、このときに判定した失格は上記の範疇には含めないで、「通常」の失格として扱わなければならない。

デレゲートとオフィシャル席

このような状況においては、1 秒すら重大な意味を持つタイムアウトが幾度も突然に取られるので、非常に機敏な対応を頻繁に要求される。合図に際して正確に時計を止めることができなかった場合、時計を正確に合わせる方法について、レフェリーに助言する必要性も生じるであろう。

6. 何年も前に競技規則を変更し、コート外における違反に対しても、1 試合を通して段階罰を通常のシステムどおりに適用できるようにした。例として、ベンチにいるプレーヤーやチーム役員に対して 2 分間退場とすることが可能になった。そのときには、ハーフタイム休憩中や他の休憩時間中も完全に同じ尺度にして一貫させるということまで考えが及ばなかった。今までは、イエローカードから一気にレッドカードへ進まなければならなかったが、今回は休憩時間中にも退場を適用できるようにした。

コーチとプレーヤー

すでに罰則を適用されているプレーヤーやコーチが休憩時間中に違反した場合、選択肢は失格しかないため、その対応をしなければならないレフェリーにとってこれは疎ましいものであった。今後は、抗議したり、後半の開始に際してなかなか戻って来なかったり、その他のスポーツマンシップに反する行為があった場合は、2 分間退場となる。

レフェリー

罰則を適用する機会を増やすことではなく、適用法に一貫性を持たせることが目的である。しかし、前もって罰則を適用されていなくても、ある状況においては 2 分間退場が適切な罰則となる場合もあるであろう。休憩時間中の失格に対して、今後はコート上のプレーヤーを 2 分間減らして競技しなければならないことに注意する。休憩時間中に罰則を適用したことを、オフィシャル席に確実に伝える。

デレゲートとオフィシャル席

前後半の間や他の休憩時間中に適用された 2 分間退場は、他の退場の場合と全く同様に扱う。したがって、コート上のプレーヤーの数を正しくして競技を再開できるよう、チームと十分にコミュニケーションを取り、レフェリーを手助けすることが大切である。

7. ボールを止める、または逸らすためにプレーヤーが足の膝より下の部分を使用する状況について、より明確な解説を記載した。プレーヤーがシュートやパスを積極的に妨害した場合は（すぐに 1 回目から）段階罰を適用しなければならない。プレーヤーの股下を狙って相手がボールを投げたときに反射的に足を閉じた場合や、相手に対して移動中にプレーヤーの動いている（体の一部としての）足がボールの邪魔をした場合は、段階罰を適用しない（相手のフリースローのみ）。

コーチとプレーヤー

ボールが来たときに、プレーヤーは本能的に足を出す癖を止めなければならない。

レフェリー

従来どおり、足の膝より下の部分を動かしていないプレーヤーの足の膝より下の部分にボールを投げつけられた場合は、違反にならない。

8. タイムキーパー（またはデレゲート）が笛またはブザーによって競技を中断するときは、レフェリーのタイムアウトの合図を待たないで、公示時計を必ずそれと同時に止めなければならない。中断の理由による相違はない。タイムキーパーの笛の後、レフェリーの判定はすべて無効となるが、段階罰はいずれも有効である。例えば、得点は認められない（その後にスローオフを行っていたとしても）。

コーチとプレーヤー

オフィシャル席からの競技中断の笛がレフェリーにも両チームのプレーヤーにも聞こえなかった場合には、その後もプレーが続いてしまうこともありえるだろう。防御側プレーヤーは競技が中断したと思い、一方で攻撃側はプレーを続けている状況も起こりえるだろう。大切なことは、捨てばちな行為に対して適用された罰則は有効となるので、このような行為をしないことなのである。

レフェリー

競技を速やかに中断できるよう、レフェリーはオフィシャル席からの笛の合図を聞き取れるようあらゆる努力をしなければならない。中断の理由を明確にし、罰則や他の処置の必要性について確証を得なければならない。オフィシャル席と協力して、レフェリーはどの位置からどのようなスローで競技を再開するかを決定する。

デレゲートとオフィシャル席

オフィシャルは、常に笛の合図と連動して時計を止める習

慣を身につけなければならない。

笛の合図が聞こえなかったためにコート上でプレーを続けている場合には、タイムキーパー／デレゲートは直ちに競技の中断を知らせるよう、厳しく督促されることになる。もっと強い思い切った手段が必要である（サイレンや大きな音の笛、ジェスチャー、立ち上がる、さらにはコート内に立ち入る）。デレゲート／オフィシャル席は、笛を吹いて競技を中断したとき競技はどのような状況だったかについて、レフェリーが正確に判断できるよう手助けしなければならない。

9. 前後半の競技時間の終了後に最後の1投としてフリースローを与えたとき、その実施における特別規定を記載した。この規定の意図は、フリースローの実施におけるスピードアップと、苛立ちの種になり時間を浪費する「茶番劇」を排除することにある。スローを行うプレーヤーの味方のプレーヤーは、スローを行うプレーヤーから少なくとも 3ｍ離れなければならないので、スローを行うプレーヤーの周りに群がることはできない。スローを行うチームに対しては1名のプレーヤーの交代を許可するが、防御側プレーヤーの交代は一切許されない。レフェリーはスローを行うプレーヤーに速やかに正しい位置につくように、そして直ちにスロー開始の笛が鳴ることを明確に伝えなければならない。

コーチとプレーヤー

スローを行うプレーヤーは指示された位置に素早く移動し、味方のプレーヤーはその位置から離れなければならない。スローを行うプレーヤーは、レフェリーの笛がすぐに鳴る心積もりをしておくべきである。新たにスローを行うプレーヤーを起用するために交代する場合を除いて、遅延はスポーツマンシップに反する行為と見なされる。防御側プレーヤーは3ｍ以上離れなければならないし、妨害すればスポーツマンシップに反する行為と見なされる。防御側プレーヤーは交代することができないので、防御の準備を待つ必要はない。

レフェリー

遅延の生じる原因は全くなくなった。攻撃側はスローを行うプレーヤーをすぐに決定し、交代が必要ならば直ちに交代しなければならない。スローを行うプレーヤーが正しい位置についたら、すぐに笛を吹かなければならない。スローを行うプレーヤーの味方のプレーヤーの位置に関する規定も忘れないようにすることが重要である。防御側プレーヤーが妨害した場合には罰則を適用する。ゴールキーパーが負傷を訴えた場合は、直ちにそのゴールキーパーはコートから出て交代しなければならない。これ以外の交代はすべて禁止されている。交代しようとしてコートに入った場合、最初の違反に対してコート上のプレーヤーを減らす罰則を適用する。これに引き続いてコートに入った違反に対しては、単に交代を認めないだけである。

デレゲートとオフィシャル席

デレゲートとオフィシャル席はすでに計時の任務を終えており、レフェリーが交代に関する規定を守らせようとしているのを手助けしなければならない。

オフィシャル席は両チームに注意を促して両ベンチを監視し、オフィシャル席で防ぐことのできなかった違反については、すべて直ちにレフェリーに知らせなければならない。

よい方法は、フリースローが判定されたときにコート上にいるプレーヤーの番号を素早くメモすることである。そうすれば、議論の余地は一切なくなる。

10. 各チームにおいて、ゴールキーパーとして出場するすべてのプレーヤーは同色のシャツを着用しなければならないと記載した。通常はコートプレーヤーとしてプレーしている者がゴールキーパーとして出場しなければならないという不測の事態や、おそらく競技の終了間際の「7人攻撃」の状況もこれに該当する。

コーチとプレーヤー

これは明らかに競技前から準備しておかなければならないことである。競技の終了間際に、コートプレーヤーに味方のゴールキーパーと同色のシャツを着用させるために用意した「ベスト」や特製シャツについても、この規定を順守しなければならないということである。少しでも判断に迷った場合は、競技前にオフィシャル席でチェックを受ける。

レフェリー

問題が生じた場合にはオフィシャル席が第一発見者となるのは確かであるが、レフェリーもこの問題を念頭に置いておかなければならない。あるプレーヤーが誤った色のシャツを着てゴールキーパーとしてコート内に入った場合、競技を中断してそのプレーヤーをコートから出さなければならない。相手チームのフリースローによって競技を再開するが、罰則は適用しない。ただし、あるプレーヤーがコートプレーヤーと同じユニホームを着てゴールキーパーとしてコート内に入った場合は、別の状況である。これは不正交代であり、規則どおり罰則を適用する。

デレゲートとオフィシャル席

両チームとレフェリーが問題を防ごうとしているのを、デレゲートとオフィシャル席は手助けするべきである。プレーヤーがゴールキーパーと交代してコートの中に入る準備をしているとき、そのプレーヤーが誤った色のシャツを着ている場合には、もし可能であれば、このような交代を未然に防ぐべきである。問題が発覚する前にプレーヤーがコート内に入ってしまった場合は、オフィシャル席は直ちに競技を中断し、これをレフェリーに知らさなければならない。

※以降の11～29の項目については、次号以降に掲載いたします。（編集委員会）

30回日本リーグ、現実の妙案は

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

日本リーグが30回を数え9月3日に開幕する。スタートしたのは1976年。男女そろってモントリオールオリンピックに出場という、まさに「おめでたい」幕開けだった。このタイミングのよさは、日本協会として出色といってよかった。当然ながらオリンピック出場が最大のイベントととらえる日本独特のマスメディアはおおいに注目した。

また、各種ボールゲーム団体が相次いで日本リーグを誕生させていたなか、日本ハンドボールリーグでは加盟チーム構想も日本協会ではかなりの新鮮さを打ち出した。現在、日本プロサッカーリーグ（Ｊリーグ）が地域密着をうたっているように、ヨーロッパ型の地域に結びついたリーグ構想だった。

実業団のトップを集めてスタートさせるという「安易」な構想ではなかった。実業団、学生、教職員、自衛隊のそれぞれ全国連盟、さらにはすべての都道府県協会から公募するというものだった。オリンピック男女そろって出場というタイミングのよさと、先発日本リーグになかったアイデアは、マスコミも黙ってはおれないほどの斬新なものだったといえよう。

ところが、せっかくの素晴らしいアイデアも「絵に描いたモチ」に終わったのは残念だった。

結局、開幕したリーグ加盟は16チーム中15チームが実業団だった。でも、その例外の１チームが教職員界の強豪として君臨していた大阪イーグルスだったのだ。実業団に混じって戦うことは、運営経費や休暇などの多くのハンディキャップがあったことは容易に想像できた。しかし、イーグルスは頑張った。１部７シーズン、２部４シーズン、実に11シーズンにわたって草創期のリーグに輝きを放ち続けたのだった。「だれよりもハンドボールを愛する」集団だからこそ出来たことだろうと想像する。

こうしていろいろ道のりをたどって30周年を迎えるリーグだが、今、さまざまな壁にぶち当たっていることはご承知の通りである。実業団チームは不況に大揺れに揺れた。休部が相次いだ。そして現在男女合わせて16チームに縮小されてしまった。女子は２部さえ姿を消している。

最多加盟数は1998年の23回リーグ、男子は１部８、２部10、女子は１部、２部各６、合わせて30チームがしのぎを削っていたことを思えば、隔世の感がする。それは寂しさしか語れない物語といってもいいだろう。

こうした現象はなにもハンドボールだけとは限らない。成功しているのはＪリーグだけといってもいいだろう。サッカーをとっても各クラブによって財政基盤はまだまだ弱いものもあるほどだ。かつては活況を呈したバレーボール（Ｖリーグ）もいまや川底に沈んでしまっており、新聞紙上の扱いも小さくなってしまった。

アテネオリンピックでは史上最多の37個のメダルを獲得したが、大半が個人競技の活躍によるものだった。それほど団体球技はアテネでは寂しい現実にさらされたといえるだろう。

５月に復活を目指して旗揚げした「日本トップリーグ連携機構」にも期待はかかる。その事業内容の中に「リーグの活性化」がある。集客対策、イベントの共催、共同マーケティングの開催などが盛り込まれている。

一方、各リーグも活性化へ知恵を絞っている。2012年のロンドンオリンピックで除外されたソフトボールは、プロジェクトチームをスタートさせ、国際的普及を図ろうと動き出した。アテネオリンピック出場で一躍脚光を浴びたホッケーは、初のリーグ・オールスターゲームを開催した。サイトでのファン投票で選手を選び、東西対抗形式だった。アメリカンフットボールのチアリーダーを招くなどファンに楽しんでもらうことに懸命だったが、果たして効果は…というところだ。

リーグはないが、レスリング協会は普及の一環としてビーチレスリングの全日本選手権を開いた。アテネの女子メダリストがエキジビションに登場したり、プロレスラーが出場したりとさまざまな趣向を凝らした。このように各競技は必死で強化、普及、集客作戦を展開する。ハンドボールも「30年おめでとう」でなく、きびしい現実脱皮へ妙案を出し合うことが急務である。

asics

俊敏ワイド。ゲルブレイブ、デビュー。

ラウンドオブリークが指周りにゆとりを生み、柔らかく足あたりのいいアッパー構造。
俊敏にしてダイナミックなプレーをサポートするゲルブレイブ。カラーも鮮やかに、デビューだ。

ゲルブレイブ
GELBRAVE WIDE
THH513 ¥12,600(本体¥12,000)
カラー:0490 イエロー×ブラック
5001 ネイビー×ホワイト
サイズ:23.0〜29.0・30.0cm


0490


5001

株式会社アシックス


アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜きの本体価格です。
http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

連載55

NTS2005報告

NTSコーディネーター　田中　茂

今年も暑い夏が続いておりますが、ＮＴＳ開催協会、関係各位、ＮＴＳインストラクターにおかれましては、ＮＴＳブロックトレーニングにご参加、ご協力頂き誠にありがとうございます。

６年目となりましたＮＴＳも、各地で充実したトレーニングが行われる事により、日本代表各カテゴリーの選手発掘、育成に対しまして多いに貢献しております。

日本代表女子ジュニアは、チェコ共和国で開催されております「第15回世界ジュニア選手権」で地元チェコ共和国に激戦の末、勝利し、予選リーグを２勝２敗で突破、決勝リーグへと進んでおります。

決勝ラウンドでは１勝２敗で９－10位決定戦に回りました。決定戦ではブラジルに敗れてしまい10位となりました。今回参加した選手達はＮＴＳを通じて発掘、育成された選手であり徐々にではありますが、代表として好結果を残してきております。

今後に期待できる若い選手が世界で結果を出していくためにも、各地で開催されますＮＴＳブロックトレーニングで、より多くの優秀な選手を発掘し育成していかなければなりません。

日本代表強化、オリンピック、世界選手権出場、また長期計画の中での、オリンピック、世界選手権上位入賞と日本ハンドボール発展のために、若い選手発掘、育成はＮＴＳの重要な役割だと思います。

より多くの優秀な選手が発掘、育成できますよう、関係各位、インストラクターの皆様のご協力を、改めましてお願い申し上げます。

【ＮＴＳ2005　認定書、Ｔシャツ】

今年度、認定書、ＮＴＳ2005Ｔシャツを各ブロックトレーニングに参加いただいている選手皆様にお渡ししています。

今年度のＴシャツには「ROAD TO OLYMPIC」とプリントしてあります。

参加した選手の多くが、オリンピック出場を目指して、精進していただけるようにデザインをしております。

「選手の皆さん、夢に向かって頑張っていきましょう。」

第15回世界女子ジュニア選手権速報

善戦、しかし一歩及ばずの10位

女子Jrチームは昨年のアジア女子ジュニア選手権（2004年7月）で２位となり、８月1日（月）～８月14日（日）、チェコ共和国で開催されました、世界女子ジュニア選手権に出場いたしました。日本チームはセルビア・モンテネグロ、ハンガリー、チェコ、チュニジアのいるＤグループで予選ラウンドを戦いました。日本は予選リーググループ２勝２敗で３位、決勝ランドに進出した。決勝ラウンドはⅡグループ（ポーランド、韓国、ウクライナ）では、ウクライナに24－19で勝利したものの１勝４敗（予選ラウンドで戦ったチームとは対戦せず予選の結果を反映）で９－10位決定戦み、決定戦ではブラジルに30（13－12、17－12）24で敗れた。優勝はロシア、準優勝ノルウェー、３位韓国で、日本は参加20チーム中10位であった。詳しい報告は次号で致します。

＜予選リーグ：Dグループ＞
○日　本 26（９－14、17－11）25　チェコ
○日　本 27（13－13、14－10）23　チュニジア
●日　本 27（13－18、14－19）37　セルビア・モンテネグロ
●日　本 24（７－21、17－21）42　ハンガリー
＜決勝ラウンド：Ⅱ－Hグループ＞
○日　本 24（11－10、13－９）19　ウクライナ
●日　本 17（９－13、８－15）28　韓　国
●日　本 31（16－18、15－20）38　ポーランド
＜９－10位決定戦＞
●日　本 24（12－13、12－17）30　ブラジル

ハンドボール競技における ゴールキーパーの体力特性



明石 光史（福岡大学：写真左）、早田 健一郎（福岡大学）、
松野 雅崇（アラコ九州）、田中 守（福岡大学：写真右）

目 的

混戦型球技スポーツであるハンドボールは、ダッシュ、ジャンプ、シュートといった無気的パワーに加え、激しい身体接触、それに耐えうる筋力、そして一試合をフルにプレーするための様々な技術や体力が必要になってくる。さらに、ハンドボールにはサッカーやホッケーと同様にゴールキーパーという特別なポジションがあり、活動内容がコートプレーヤー異なることから、コートプレーヤーとは違った体力要因が考えられる。しかし、その基礎データが乏しいのが現状である。そこで、本研究ではハンドボールにおけるゴールキーパーの体力的特性を明らかにすることを目的とする。

方 法

対象者

実業団ＧＫ（３名）、九州学生上位チームＧＫ（10名）、高校九州上位チームＧＫ（11名）、九州学生上位チームＣＰ（16名）、高校九州上位チームＣＰ（15名）

測定項目

①形態：身長、体重、％ＦＡＴ（皮下脂肪厚法）、手幅、指極、胸囲、肩峰幅、腰幅
②筋力：握力（利き手、非利き手）、背筋力
③跳躍力：立ち幅跳び、立ち５段跳び
④投力：メディシンボール投げ（前方、後方）
⑤柔軟性：前後開脚（右足前、左足前）、左右開脚
⑥走力

《前後ステップ》…ハンドボールコートエンドラインからＧＫラインの４ｍを、前後ステップで３往復するのに要する時間を測定。
《左右バータッチ》…ハンドボールゴールを使い、左右肩の高さのバーを６回連続でタッチするのに要した時間を計測。
《反復横跳び》…文部科学省認定のスポーツテストで行われている測定方法で行った。
《三角フットワーク》…ハンドボールゴールライン中央をスタート地点とし、左右どちらかのゴールポストにタッチし４ｍのキーパーラインを踏み、始めにタッチした反対側のゴールポストにタッチし中央に戻る。以上のことを１往復するのに要したタイムを測定。
《50ｍ方向変換走》…高松考案の方向変換角度が鋭角な方向変換走であり、１周25ｍの距離を２周するのに要した時間を測定。

結 果

実業団、大学、高校のＧＫ比較

形態に関しては、実業団の値が大学ＧＫ、高校ＧＫと比較して有意に高い項目が多かった。大学ＧＫと高校ＧＫでは、肩峰囲において大学ＧＫが有意に高いのみであった。筋力では、実業団の背筋力が大学ＧＫと比べ有意に高かった。跳力では、立ち５段跳びにおいて、実業団が大学ＧＫと比べ有意に高かった。投力では、メディシンボール前方、後方投げにおいて実業団が大学ＧＫ、高校ＧＫと比較して有意に高く、大学ＧＫと高校ＧＫ間ではメディシンボール後方投げで、高校ＧＫが有意に高かった。柔軟性においては、身長の影響が大きいため各測定値を身長で除した値で比較した。各ＧＫ共に高い値を示した。その中で、高校ＧＫが大学ＧＫより有意に高い結果となった。走力に関しては、前後ステップにおいて実業団が大学ＧＫより有意に速いのみで、他に有意な差がある項目はなかった。

ＧＫとＣＰの比較

次に、ＧＫとＣＰで比較を行った。その中で、％ＦＡＴに関しては、大学ＣＰ、高校ＣＰともにＧＫより有意に低かった。筋力では、背筋力において大学ＧＫが、大学ＣＰ、高校ＣＰと比べ有意に低い結果となった。跳力では、立ち５段跳びにおいて、大学ＧＫが大学ＣＰ、高校ＣＰより有意に低かった。投力においては、メディシンボール後方投げにおいて、大学ＧＫはＣＰと比べ有意に低い結果となった。柔軟性では、ＧＫが多くの項目においてＣＰより有意に高かった。走力では、50ｍ方向変換走、三角フットワーク、前後ステップにおいて、ＣＰがＧＫより有意に速い結果となった。

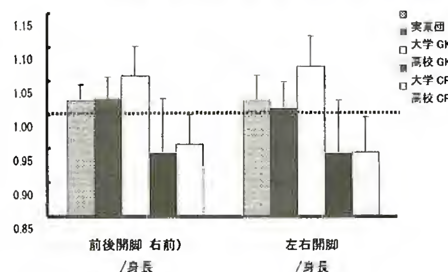


図１ 柔軟性の比較

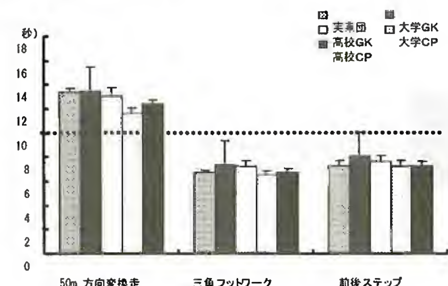


図２ 走力（50ｍ方向変換走、三角フットワーク、前後ステップ）の比較

考 察

今回の結果から、ＧＫ，ＣＰと比較し実業団ＧＫの形態は有意に優れていることがわかった。しかし、大学ＧＫ、高校ＧＫ、大学ＣＰ、高校ＣＰの比較では、あまり有意な差が見られなかった。２ｍ×３ｍのゴールを守る訳であるから、ＧＫは体格が大きい方が良いのは必然であり、競技レベルが上がるに従って必要性は増してくる。身長、指極、肩峰囲の成長は、大学時期でほぼ止まってしまう。よって、％ＦＡＴを維持したまま筋力トレーニングで体重、胸囲を向上させ体格の厚みをつけることが必要と思われる。

柔軟性に関しては、ＧＫがＣＰと比較し優れていることが分かった。ＧＫにとって柔軟性は最も重要な体力要素の１つであり、高いパフォーマンス、怪我防止のためも高い方が望ましいと思われる。

走力に関しては、ＧＫ同士の比較ではあまり差は見られなかったが、ＣＰとの比較では多くの項目で有意に劣っていた。今回の三角フットワーク、前後ステップは、ＧＫの動きから測定方法を考えたが、ＣＰも同様な動きが必要と思われる。従って、ＧＫは、ＣＰと比べ走ることは少ないが、ＧＫのポジション特性上これらのような動きが求められるので、更なる向上が必要と思われる。

まとめ

今回の測定によって以下のような結果を得た。

①実業団ＧＫは、形態の多くの項目において大学ＧＫ、高校ＧＫよりも有意に優れていた。
②ＧＫはＣＰより、柔軟性において有意に優れていた。
③ＧＫは、大学生、高校生においてＧＫ特有と思われる走力がＣＰより有意に劣っていた。

以上のことから、優れたＧＫを選び育てていく為には形態的に大きく、柔軟性に富み、無気的パワーに優れた、バランスのとれた選手が望ましいと考えられる。また、ＧＫにおける無気的パワートレーニング、とりわけフットワークトレーニング、走パワートレーニングの必要性が示唆された。

アテネオリンピック（女子）の分析

連続した早いプレー

～速攻、危険覚悟の創造に富んだテクニック～

国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）の機関誌であるワールド・ハンドボール・マガジン（WHM：年４回発行）には、不定期で世界大会の分析が掲載されます。2004年３号には、昨年９月に開催されたアテネオリンピック女子の分析が、ＩＨＦ Dietrich Spate氏、Frantisek Taborsky氏、Peter Koacs氏、Bengt Yohansson氏の分析が掲載されました。

今号では、前号に続き監修を指導委員長笹倉清則氏、学芸大学附属高校ハンドボールの若杉彬君、荒井広倫君の翻訳により掲載いたします。併せて男子優勝監督Lino Cervar氏（クロアチア）のインタビューを掲載致します。

監修　笹倉　清則（指導委員長：日本女子体育大学）写真左
翻訳　荒井広倫（東京学芸大学附属高校ハンドボール部）写真中央
若尾　彬（東京学芸大学附属高校ハンドボール部）写真右



より高速化したゲーム

男子の試合と同じように、女子の試合もいっそうスピードが上がったのは顕著である。特にデンマーク対韓国の試合は、ここ数年で最もスピードのある試合だった。このすばらしいアテネでの戦いには以下の特性が表れた。

①一貫して一次、二次の速攻をしていた。（写真１）
②形のできあがったディフェンスに対して、すぐに速攻からセットプレーに動きのあるプレーを続け、 組み立ての段階がなかった。



写真１

③試合全体を通して一貫して速攻をしていた。
④意図的にスローオフを速くしていた。
⑤セットプレーの組み立て段階が短かった。
⑥速攻の中で、速く多様なパステクニックを使っていた。
⑦ミスやルーズボールの後でさえも危険覚悟で一貫して素早いプレーを続けていた。

特に決勝戦では以下の特徴が顕著に表れていた。

⑧コートを少ないパスで素早く動いていた。
⑨３－３の攻撃的なディフェンスの型をやっていた。
⑩すぐにセットプレーで計画的なプレーを続けていた。
⑪進んで集団的な攻めの戦術を使っていた。（例：ずらしの動きや、司令塔にパスをしてポストとセンターのブロックで数的優位な状況を作り出すプレー）

ほとんどのチームが主に攻撃的なディフェンスの型をとったため、速攻はたいてい一次の型か、少人数でのプレーとなった。

逆速攻狙いの積極的なディフェンス

素早いプレーが発達した結果、いくつかの女子ハンドボールチームがより攻撃的で積極的な逆速攻をどんどん使っている。例えば、韓国のディフェンスが戻りの段階でどのような動きをしたか、というのがある。

①韓国の選手は初期に相手がまだ半分の所にいる間、試合が始まるとすぐにボールと相手に集中した。
②バックランニングをしている間、センターラインのちょうど後ろで相手の前に立つディフェンスの位置取りをしていた。
③９ｍラインから離れたディフェンスの型を作っていた。
④積極的なディフェンスをし、例えばパスや走りの好機をつぶしたり、オフェンスファールを誘ったり、２人でボールを持っているプレーヤーに進んでカ

デンマーク	スウェーデン型の６－０ディフェンス
韓国	積極的な６－０ディフェンスと５－１ディフェンス
ウクライナ	ボールを中心とした５－１ディフェンス
フランス	５－１；５－０+１；４－０+２；４－１+１；６－０
ハンガリー	５－１；６－０
スペイン	５－１，１－５を使い分ける
ブラジル	６－０ ；５－０+１
中国	６－０；１－５；３－３
アンゴラ	５－１
ギリシャ	６－０ ；５－１；５－０+１

表１　女子チームが用いた主なディフェンスシステム

バーに入ったりした。

柔軟な攻めや守りのプレーがより一般的になった

表１から分かるように、女子ハンドボールで最も広く使われたディフェンスシステムは攻撃的なディフェンスであり、それらには多くの異なるディフェンスの戦術がある。

①アジアのチームはたいてい、男子を基にしたであろう非常に攻撃的な１－５や３－３ディフェンスを使うのを好んだ。（写真２）しかしながら、試合中に積極的で攻撃的な６－０ディフェンスに切り替えることもできた。

②オリンピック優勝チームのデンマークは、中心に攻撃的なディフェンダーを置いたスウェーデン型の６－０ディフェンスをトーナメントで使った唯一のチームである。ボールを基準として横に動き、ボールの周りで数的優位にするという点は、この試合の独特な性質であった。

③ウクライナとハンガリーはセンターのディフェンダーがボールを基準に動くような５－１ディフェンスをした。

④フランスは最もよく変化するディフェンスシステムを使い、時々試合中やディフェンス中にマークの型を何回か変えた。基本の５－１ディフェンスから５－０＋１，４－０＋２，６－０に変化させたのである。これは準々決勝のハンガリー戦で特に成功を収めた。

⑤スペインは男子の型をまねした５－１ディフェンスから始めて、ボールを基準とした動き（ボールのある側で数的優位を作ること）を使った。フランスのチームのように、スペインはこのディフェンスシステムから攻撃的なプレーを強くすることができ、１－５ディフェンスを作り上げさえもした。ディフェンスの戦術の発達に関しては、フランスの型が特に面白い。この柔軟なディフェンスの型は、伝統的な戦術（防御型か攻撃型）とは異なる、幅広い個々人の堅い基礎の強化によってのみ成し得るのである。



写真２

主に得点はポストによってなされた

試合の統計によると、女子オリンピックトーナメントのほとんどのゴールはポストによって決められていて、これは男子の試合との類似点として見られる部分である。プレーヤーの技術にはかなりの発達があったのである。（写真３）

①ポストへの素早いパス、いくつかは時々ボレーのようなパス・様々なバウンドパス

②片手でボールをキャッチしてから、すぐに落ち着いた攻撃への転換

③セットプレーでの素早いパスの変化（リストパス）

④ポストへの危険覚悟のパス（例：リバースパス）。例えばウクライナやフランスのような国は、故意に右利きのプレーヤーを、典型的には左利きの入るＲＨの位置に置いた。これは訓練と準備をしたプレーヤーはどのポジションでもプレーできる証拠である。アンゴラがバックコートから最も高い統計上のスコアを記録しているという事実より、ヨーロッパ系でないチームは個人技が成長したと分かる。


写真３

男子優勝チーム
クロアチアトレーナー Leno Cervar 氏へのインタビュー



全体で「最高のプレーヤー」と成り得るチーム作りに専念

—アテネでの成功の鍵はなんでしたか？

一つは準備期間、もう一つは他国のゲームの考え方とはあらゆる面で異なるゲームの組み立て方にあったと思います。他の国々の方がよい条件を持っている分野で成功への道を探すのは無意味です。私は自分の選手たち個人個人が必ずしも世界トップレベルのプレーヤーではない事を十分承知しています。だから私は、全体で「最高のプレーヤー」と成り得るチームを作る事に専念したのです。私は既にポルトガルで、トレーニングは精神的と受身的スピードのバランスに左右されるという理論を展開し実行していました。私はトラックで速く走れるプレーヤーが必ずしも速いプレーヤーだとは思わないのです。重要なのはどれだけ速く考える事が出来るかです。試合中の具体的な局面を繰り返しシミュレーションする事により、プレーヤーの判断能力を加速させ、脳が状況を把握してから実際に体が反応するまでにかかる時間を短縮させました。この結果、プレーヤーたち、そしてチーム全体の考える能力が養われたのです。普段から、我々はあらゆる状況で、与えられた情報から最善の決断を下す時間を短縮するトレーニングを行っています。

—そのトレーニングの結果は試合の中のどんな場面で現れていましたか？

クロアチア代表チームはディフェンス時と攻撃に移る場面で個性と斬新さが現れます。もちろん、私たちは試合中にディフェンスやオフェンスのシステムを変え、試合の主導権を握っていきます。私たちのモデルは他国の代表チームやクラブチームに大きな影響を与えたようです。この方法は、躍動的な力強さに重点を置き、スポーツとしてのハンドボールの美しさを引き立てるからです。

—このような大きな大会に備えて、どのようにしてチームの意気を保ちましたか？

やる気や精神的な心構えなど個人の心の状態は、チームの成功に大きな影響を及ぼします。個人的には、精神的な要素が60％試合の結果を左右すると思っています。一番重要なのは、プレーヤーが必要なときにより一層の努力をすることが出来るかという事です。それが出来るか出来ないかが良いプレーヤーとトッププレーヤーの違いです。だから私は試合前には選手たちに精神的準備を怠らないよう強く要求します。全てのゴールは達成することができるというアイデアを含め、常に前向きな姿勢がチームの中で確立しているかどうかも試合結果を大いに左右します。また、純粋に自分の仕事が好きであるかどうかも大変重要性を持っています。情熱とはあらゆる勝者に共通する特徴なのです。私の選手たちは結果でなく、試合そのものに集中します。彼らを駆り立てるものは個人的野望や、家族や故郷に錦を飾りたいという思いです。私たちは決して勝利を諦めず、常に「試合は最後の瞬間までわからない」というモットーを信じ続け、ミスを取り返し試合の流れを変えようとします。日常から重圧の下で勝者になるための精神的トレーニングを怠らないからこそそれが可能なのです。

—このチームは2005年にチュニジアで開かれる世界選手権まで今の状態を保てるでしょうか？　チーム向上のためのこれから先の計画は？

アメリカでは、人は年を重ねてもその可能性が消耗するまでは老いないというのが一般的な考えです。だから人は常に「若く」ありたいと願うのです。プレーヤーが情熱をなくし始めたり今以上を求めてがんばり続けることを拒んだとき、そのプレーヤーは老い始めます。彼らはもう今の状態を保つ、ましてや超える事など出来ないと自分で決め付けてしまうのです。もちろん、私はこの考えを全面的に否定しています。

人は何歳になっても学び続けなければなりません。自分の上達を抑制してしまうのは大抵が失う事を恐れてしまっている年配のプレーヤーたちです。最近のトレーナーたちは安全策をとるつもりで年配のプレーヤーを中心としたチーム作りに重きを置いています。しかし私たちのチームは平均年齢が25歳です。これはつまり若い世代を中心としたチームでも十分勝者となりえることを証明しています。何はともあれ、もし近い将来私の代表チームから落とされた選手が現れたとしたら、それは今言った理由からでしょう。いえ、私が落とすという表現は適切ではありませんね。彼らが自分自身で身を引いてしまい、私は単にそれを形で表すのです。チュニジアの世界選手権では今までの試合を参考にしてプレーをするつもりですが、新しい要素を取り入れる事も厭いません。

—あなたは最近クロアチアの下院議員に選ばれましたね

プロのハンドボールトレーナーであると同時に下院議員を務めているのはきっと私くらいでしょう。スポーツ関係者がより一層政治に参加するようになれば素晴らしいと思います。スポーツマンとウーマンは人々を集めたり、献身的に物事に取り組む能力を持っています。私はこれからよりよいスポーツの法律成立に向けて戦い、またもちろん私がこよなく愛する一般市民の人々のためにも戦って行きたいと思っています。

特別寄稿

ギョンナム・アナズヴィルカップに出場し・・

女子代表チームコーチ 荷川取 義浩（北國銀行）



新監督とともに、北京への足がかりを掴む

●はじめに

今大会は、アテネオリンピックの金・銀・銅が勢揃いということで、12月にロシアで行われる世界選手権の前哨戦として、格好のトライアルとなった。

日本チームはデンマーク、ウクライナ、韓国、中国の順番での対戦。中国を除き、3国はアテネオリンピックから多少のメンバーの入れ替えはあるものの世界トップクラスには間違いない。日本の現状の力がどれくらい通用するのかという意味でも、チャレンジャー精神で勝利を目指し、またトライアルということで、ベンチ入り全員に出場チャンスを与えました。なおかつ、国際試合でのスタミナ不足の解消手段として、ベンチ入り全員で戦えればという視点からゲームに臨みました。

●見えてきた課題

各試合ともに、高さとパワーに苦しめられるものの、ベンチ入り選手の一人一人が持ち味を発揮し、今後に期待を抱かせる試合の連続であった。

特に2戦目のウクライナ戦は前半から常にリードを許す苦しい展開。しかし、粘り強く喰らいつき、前半を1点リードされて終了。後半立ち上がりに2連取され3点差に、ここから18分までに4連続得点を2度記録、逆転しペースをつかみ、結局22対20で勝利できたことは、選手達にとって、日本チームにとって大きな自信となったと思う。

チームとして完成度の高かった韓国、パワー・スピードを兼ね備えたデンマーク、若いチームではあったがデンマークを破り、力をアピールしたウクライナ、出場チームで1番平均身長が高く、今後の成長に恐怖を感じた中国に対した大会の成績は、2勝2敗で第4位（2－4位間の得失点差により）。メダルは逃したものの、収穫の多い大会となった。

●新監督について

紳士的にかつ丁寧に説明してくれるので、とてもわかりやすく、選手たちも十分に理解していると感じた。日本の女子界に波を起こし、新しい時代を築いてくれる人だと思うので、全力でバックアップしていきたい。

●世界選手権・北京への抱負

新監督とともに、北京への足がかりとして、最高の成績が収められるよう、全力で取り組んでいきたい。　そのためにも、上半身のパワーアップが不可欠、そして、よりスピード化と個人技術のレベルアップし、ヨーロッパ・韓国スタイルをミックスさせた日本独自のハンドボールの完成をさせていきたい。

NHKスポーツ教室：ハンドボール　放映決定

日　時：9月17日（土）12：00～12：30
内容：ポストプレー、基礎、キャッチング、ポストシュート受け身、ポストシュート、基本的コンビネーション
9月24日（土）12：00～12：30
内容：ポストプレー、バックプレーヤーとのコンビ、ハンドリング、アシスティング、攻防2－1、攻防4－3、システムチェンジによるコンビネーション
放映局：NHK教育テレビ
出　演：HC名古屋、名古屋市立桜台高校
指　導：田中 俊行（HC名古屋ヘッドコーチ）、藤本　元（日本協会強化委員）

スコアルーム ①

第25回全国クラブハンドボール選手権大会・西地区大会：のじぎく兵庫国体ハンドボール競技リハーサル大会

期　日：平成17年7月8日（金）～10日（日）
会　場：養父市立八鹿総合体育館、朝来市和田山体育センター

【男子】

■予選リーグ・Aブロック

下松クラブ	21	（8－3、13－6）	9	正強クラブ
北送会	25	（12－5、13－3）	8	正強クラブ
下松クラブ	14	（6－5、8－8）	13	北送会

■予選リーグ・Bブロック

西宮東クラブ	16	（9－4、7－7）	11	京友クラブ
清商クラブ	14	（5－6、9－8）	14	京友クラブ
清商クラブ	19	（9－5、10－7）	12	西宮東クラブ

■予選リーグ・Cブロック

中央クラブ	19	（8－8、11－7）	15	那賀クラブ
パームヒルズクラブ	19	（9－7、10－8）	15	那賀クラブ
パームヒルズクラブ	17	（8－9、9－7）	16	中央クラブ

■予選リーグ・Dブロック

ボンチフェローズ	22	（10－3、12－4）	7	HBクラブ
ACウィンズ	14	（7－5、7－6）	11	HBクラブ
ボンチフェローズ	12	（6－5、6－5）	10	ACウィンズ

■5～7位決定戦

北送会	21	（9－5、12－10）	15	西宮東クラブ
ACウィンズ	17	（7－6、10－5）	11	中央クラブ

■9～11位決定戦

正強クラブ	16	（11－4、5－10）	14	京友クラブ
HBクラブ	14	（10－8、4－4）	12	那賀クラブ

■準決勝

下松クラブ	18	（10－5、8－4）	9	清商クラブ
ボンチフェローズ	14	（7－8、7－5）	13	パームヒルズクラブ

■3位決定戦

パームヒルズクラブ	18	（8－6、10－11）	17	清商クラブ

■決勝

下松クラブ	**21**	**（12―9、9―7）**	**16**	**ボンチフェローズ**

【女子】

■予選リーグ

徳山クラブ	18	（3－8、9－4） （2－2） （2－2） （2　7MT　1）	17	コスモス・ピッキーズ
ポストクラブ	18	（8－6、10－6）	12	NTF守山女子
大阪教員	19	（10－3、9－5）	8	香川レディース
風見鶏クラブ	17	（8－6、9－5）	11	宮崎クラブ
コスモス・ピッキーズ	19	（12－1、7－4）	5	香川レディース
宮崎クラブ	16	（10－7、6－3）	10	NFT守山女子

■5～7位決定戦

コスモス・ピッキーズ	12	（棄権）	0	宮崎クラブ

※宮崎クラブ怪我人続出のため

香川レディース	14	（5－8、7－4） （2－1）	13	NFT守山女子

■準決勝

徳山クラブ	14	（7－7、7－6）	13	大阪教員
風見鶏クラブ	20	（9－6、11－6）	12	ポストクラブ

■3位決定戦

大阪教員	23	（12－7、11－6）	13	ポストクラブ

■決勝戦

風見鶏クラブ	**19**	**（10―11、9―6）**	**17**	**徳山クラブ**

スコアルーム ②

第25回全国クラブハンドボール選手権大会・東地区大会

期　日：平成17年7月16日（土）～18日（月・祝）
会　場：本宮町総合体育館、本宮体育館、本宮高校体育館

【男子】

《会長杯トーナメント》

■1回戦

渡辺組	33	（18－7、15－9）	16	908クラブ
青商クラブ	25	（11－16、9－4） （3－3延長2－0）	23	新鮮組
神楽坂会	24	（11－6、13－6）	12	不来方クラブ
野辺地クラブ	24	（11－12、13－11）	23	金津クラブ
紫嵐会	28	（15－13、13－14）	27	富岡ハンドボールクラブ
湖陵クラブ	29	（13－7、16－8）	15	H・B・C新潟
リリオ神奈川	21	（10－8、11－7）	15	M・H・C
土浦三高クラブ	23	（12－8、11－8）	16	h・c・million

■2回戦

青商クラブ	26	（17－12、9－13）	25	渡辺組
紫嵐会	28	（10－5、18－17）	22	湖陵クラブ
神楽坂会	30	（16－4、14－7）	11	リリオ神奈川
土浦三高クラブ	22	（10－12、12－6）	18	野辺地クラブ

■準決勝

紫嵐会	20	（7－9、13－9）	18	青商クラブ
神楽坂会	18	（11－12、7－5）	17	土浦三高クラブ

■決　勝

紫嵐会	**23**	**（12―8、11―14）**	**22**	**神楽坂会**

《町長杯トーナメント》

■1回戦

新鮮組	35	（21－5、14－10）	15	908クラブ
富岡ハンドボールクラブ	33	（16－15、17－6）	21	H・B・C新潟
M・H・C	31	（14－11、17－10）	21	不来方クラブ
h・c・million	31	（16－8、15－13）	21	金津クラブ

■準決勝

新鮮組	27	（14－12、13－13）	25	富岡ハンドボールクラブ
h・c・million	22	（14－6、8－7）	13	M・H・C

■決　勝

h・c・million	**25**	**（10―8、15―9）**	**17**	**新鮮組**

【女子】

《会長杯トーナメント》

■1回戦

REDS	16	（9－5、7－4）	9	五つ星
オレンジクラブ	18	（7－5、11－2）	7	萩江クラブ
福島クラブ	21	（12－3、9－4）	7	豊平クラブ
筑波学園クラブ	23	（11－9、12－4）	13	野辺地クラブ

■準決勝

オレンジクラブ	20	（9－6、11－5）	11	REDS
筑波学園クラブ	18	（13－9、5－8）	17	福島クラブ

■決勝

筑波学園クラブ	17	（8－6、9－10）	16	オレンジクラブ

《町長杯トーナメント》

■1回戦

萩江クラブ	21	（10－8、11－5）	13	五つ星
野辺地クラブ	23	（12－3、11－2）	5	豊平クラブ

■決　勝

萩江クラブ	**14**	**（8―7、6―6）**	**13**	**野辺地クラブ**

スコアールーム ③

平成17年度　第13回全日本ハンドボールマスターズ大会

日　時：平成17年7月29日（金）～31日（日）
会　場：舞洲アリーナ体育館、舞洲運動公園球技場（11人制用芝生コート）

【男子】

《交流型》

■あブロック

東京クラブ連盟A	11－10	櫻ドール
HC名古屋A·T·F	12－10	三　景
４６Ｇ会	14－8	泉丘会
葵クラブ	8－4	ＬＢＣアルバトロス
三　景	13－7	泉丘会
４６Ｇ会	11－5	ＬＢＣアルバトロス
東京クラブ連盟A	13－10	ＨＣ名古屋Ａ・Ｔ・Ｆ
櫻ドール	9－5	葵クラブ
三　景	10－3	ＬＢＣアルバトロス
泉丘会	13－10	東京クラブ連盟Ａ
４６Ｇ会	17－7	櫻ドール
HC名古屋A·T·F	10－4	葵クラブ
東京クラブ連盟A	10－6	ＬＢＣアルバトロス
三　景	10－6	櫻ドール
４６Ｇ会	9－7	ＨＣ名古屋Ａ・Ｔ・Ｆ
葵クラブ	13－7	泉丘会

■いブロック

横浜平沼マスターズ	9－1	坊，Ｓ（ぼうず）
堺グランバーズ	17－7	美送クラブ
東京クラブ連盟Ｂ	16－6	高高（たかこう）クラブ
オールド愛媛	9－7	生駒オークス
堺グランバーズ	14－7	高高（たかこう）クラブ
オールド愛媛	11－9	東京クラブ連盟Ｂ
横浜平沼マスターズ	8－7	美送クラブ
生駒オークス	16－1	坊，Ｓ（ぼうず）
オールド愛媛	8－5	堺グランバーズ
横浜平沼マスターズ	11－9	高高（たかこう）クラブ
東京クラブ連盟Ｂ	20－4	坊，Ｓ（ぼうず）
生駒オークス	10－3	美送クラブ
オールド愛媛	8－5	横浜平沼マスターズ
堺グランバーズ	17－4	坊，Ｓ（ぼうず）
東京クラブ連盟Ｂ	13－3	美送クラブ
生駒オークス	13－3	高高（たかこう）クラブ

■うブロック

小金クラブ	11－7	岩手フェザント/ＨＣ花巻
兵庫選抜	19－4	岡山クラブ
TeamNext	9－6	三国丘クラブ
東山クラブ	13－8	岩手フェザント/ＨＣ花巻
TeamNext	11－2	岡山クラブ
岐阜ＭＨＣ	8－5	三国丘クラブ
岩手フェザント/HC花巻	7－5	兵庫選抜
東山クラブ	12－9	小金クラブ
岩手フェザント/HC花巻	11－6	TeamNext
小金クラブ	12－4	三国丘クラブ
岐阜ＭＨＣ	8－1	岡山クラブ
兵庫選抜	15－5	東山クラブ
岩手フェザント/HC花巻	13－8	岐阜ＭＨＣ
小金クラブ	19－3	岡山クラブ
兵庫選抜	11－5	三国丘クラブ
TeamNext	7－7	東山クラブ

《順位決定型》

■Ａブロック

NISSHIN鉄球会	11－8	海自桜錨会
下松クラブアダルツ	13－9	待兼シニア
海自桜錨会	11－7	待兼シニア
NISSHIN鉄球会	10－9	下松クラブアダルツ
海自桜錨会	10－9	下松クラブアダルツ
NISSHIN鉄球会	10－9	待兼クラブ

■Ｂブロック

神楽坂フェニックス	11－7	ＩＤＢスポーツクラブ
オールドフェイス	12－8	徳山クラブ
オールドフェイス	11－6	神楽坂フェニックス
徳山クラブ	11－9	ＩＤＢスポーツクラブ
オールドフェイス	13－4	ＩＤＢスポーツクラブ

■7・8位決定戦

IDBスポーツクラブ	11－9	待兼クラブ

■5・6位決定戦

下松クラブアダルツ	13－9	徳山クラブ

■3･4位決定戦

神楽坂フェニックス	11－7	海自桜錨会

■決　勝

NISSHIN鉄球会	**13－9**	**オールドフェイス**

【女子】

《交流型》

■アブロック

甲斐クラブ	7－2	ギャロップレディーズ
モッピークラブ	6－1	武蔵野クラブ
スマイルGifu	8－6	生駒オークスレディーズ
モッピークラブ	11－8	スマイルGifu
甲斐クラブ	6－4	生駒オークスレディーズ
ギャロップレディーズ	7－5	武蔵野クラブ
甲斐クラブ	8－6	モッピークラブ
武蔵野クラブ	4－4	スマイルGifu
生駒オークスレディーズ	6－3	ギャロップレディーズ
モッピークラブ	9－5	ギャロップレディーズ
生駒オークスレディーズ	9－5	武蔵野クラブ
スマイルGifu	6－6	甲斐クラブ

■イブロック

樫さんクラブ	9－2	ＨＣ名古屋・中部ドリームズ
瀬戸内レディーズ	7－4	BABAR，Ｓ（ババーズ）
瀬戸内レディーズ	7－4	ＨＣ名古屋・中部ドリームズ
樫さんクラブ	7－5	BABAR，Ｓ（ババーズ）
HC名古屋・中部ドリームズ	6－4	BABAR，Ｓ（ババーズ）
樫さんクラブ	6－6	瀬戸内レディーズ

《順位決定型》

■Ａブロック

射水クラブ	11－1	ぽっけもん
スズッキーズ	11－5	風見鶏ファミリー
射水クラブ	12－9	スズッキーズ
射水クラブ	9－6	風見鶏ファミリー
スズッキーズ	11－5	ぽっけもん
風見鶏ファミリー	7－3	ぽっけもん

■Ｂブロック

TOKUYAMA61	9－4	マミーズ
Fenice（フェニーチェ）	37－5	マミーズ
TOKUYAMA61	10－6	Fenice（フェニーチェ）

■交流型イ3 VS 順位決定型Ｂ3

Fenice（フェニーチェ）	5－3	瀬戸内レディーズ

■交流型イ3 VS 順位決定型Ｂ3

TOKUYAMA61	8－4	樫さんクラブ

■交流型イ3 VS 順位決定型Ｂ3

マミーズ	8－7	ＨＣ名古屋・中部ドリームズ

■交流型イ3 VS 順位決定型Ｂ3

ぽっけもん	6－4	BABAR，Ｓ（ババーズ）

■5･6位決定戦

風見鶏ファミリー	9－8	マミーズ

■3･4位決定戦

スズッキーズ	12－4	Fenice（フェニーチェ）

■決　勝

射水クラブ	**8－6**	**TOKUYAMA61**

協会だより

平成17年度　第1回評議員会

日　時：平成17年6月11日（土）
場　所：日本青年館501
出席者：評議員41名、委任状提出評議員13名、出席理事11名、出席監事2名、事務局3名

評議員会開催に先立ち、本年10月に開催される岡山国体の開催地より大会成功への協力要請と挨拶がなされた。

審議事項

1. 平成16年度事業報告書について
専務理事より全体的な説明、事業について各担当常務理事より説明。

2. 平成16年度決算書について
事前送付資料により説明。

3. 平成17年度第一次補正予算について
事前送付資料により説明。

4. その他
今年度から国際大会ユースの新カテゴリー新設による強化費の確保、役員旅費について説明。
評議員会旅費の選出元からの支出を理事会で検討し次回評議員会に提案する。

報告事項

1. 平成17・18年度日本協会役員について
専務理事より資料で説明。

2. 平成17年度日本協会組織図について
専務理事より資料で説明。

3. 平成17年度及び平成18年度会議日程について
資料で説明。

4. 日本協会要覧について
事前送付の日本協会要覧について説明。

5. 登録チーム、登録人口の推移について
資料により説明。近年登録数は減少傾向にあったが平成15・16年度には若干の増加。

6. 平成17年度国内・国際大会日程について
資料により説明。

7. ナショナルスタッフについて
資料により説明、ナショナルコーチはグループ化し、男子チーム14名、女子チーム13名で当たる。

8. 平成17年度第8回ハンドボール研究集会について
資料により説明。本年度研究会は昨年に続き熊本で開催。本年度のハンドボール実践研究委託校は8校。

9. 日本リーグ報告について
資料により説明。

10. がんばれハンドボール10万人会について
資料により説明。あと8000名で10万人に達するので、各都道府県での入会促進を依頼。
今回大幅会員増のあった大分県・佐藤喜一評議員から取り組み報告。

11. その他
1）日本トップリーグ連携機構について説明。市原副会長（日本リーグ機構会長）が専務理事に、茂木日本リーグ事務局長が同機構事務局次長。
2）第2回日本車椅子ハンドボール競技大会のパンフレット配布。
3）事務連絡があった。
4）ナショナルチーム合宿会場提供のお願い。

平成17年度6月常務理事会

日　時：平成17年6月18日（土）
場　所：東京体育館第4会議室
出席者：山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事9名、監事2名、事務局2名

審議事項

1. 平成16年度事業報告書について

2. 平成16年度決算書について

3. 平成17年度第一次補正予算について
3議題については確認。理事会報告では、全体の概要は専務理事が、各担当常務理事は報告を簡潔にまとめて説明した。

4. 平成18年度登録料改訂について
資料の説明。理事会には提示のみで11月の理事会で継続審議。

5. 強化関係（ナショナルチーム、予算他）について
資料により説明。1）強化予算の見直し要望。今後財務部、強化部両者で検討、方向性を出す方向で継続審議。2）各カテゴリーの海外遠征時の団長を選出の依頼。3）代表チームの強化合宿誘致の依頼。4）高校生・大学生の強化指定選手の日本リーグへの選手登録案の提示。

6. 強化関係規定について
資料により報奨金規程の提案。継続審議。

7. ナショナルチームマークデザイン（アシックス提供）について
ナショナルチームマークデザインの提案。選択は実際に身につけるU－23以下の選手及び午後の理事会において意見を聴取後決定。

8. 春の全国中学生ハンドボール選手権について
資料により大会概要の説明。氷見実行委員会より「内閣総理大臣杯」の冠をつけたい旨要望があり、日本ハンドボール協会から申請書を出し手続きを行う。大会の愛称について今後検討。参加資格の合同チームについて説明。大会時講習会を開催。

9. 第3回車椅子ハンドボール選手権について
資料により説明。

10. 大会役員派遣について
資料により原案の提示。

11. 協会役員承認について
資料により説明。現理事枠に1名欠員、西窪勝広氏（オムロン所属）の推薦を、理事

会に提案。

12. 平成16年度日本協会表彰について

資料により平成16年度の表彰推薦者について提案、理事会に諮る。対象者は60歳以上。

報告事項

報告事項は時間の関係で、全て午後の理事会にて行う。

平成17年度　第1回理事会

日　時：平成17年6月18日（土）
場　所：東京体育館第2会議室
出席者：渡邉会長、山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事9名、理事6名、監事2名、出席参事19名（含代理）、事務局3名

審議事項

1. 平成16年度事業報告書について

事前送付資料により専務理事から全体的な説明、それぞれの事業について各担当常務理事より簡潔に説明された。

2. 平成16年度決算書について

事前送付された資料により説明、承認。

3. 平成17年度第一次補正予算について

事前送付された資料により説明、承認。

4. 平成18年度登録料改定について

資料により平成18年度に改定予定の個人登録料について説明。今後の手続きは、本理事会で提案の後、夏ごろ各団体間で調整し、11月理事会では最終決定、来年度からの導入を目指す。継続審議。

5. 強化関係について

強化予算について、財務と調整・検討し6月末日までにある程度の方向性を出すことの説明。女子日本代表新監督ベルト・バウワー氏の就任報告。代表チームの強化合宿誘致について報告。高校生・大学生強化指定選手の日本リーグへの登録案実について説明。

6. 強化関係規定について

報奨金規程案の提示と説明。継続審議。

7. ナショナルチームマークデザインについて

ナショナルチームマークについて資料で経緯説明及びデザイン提案。マークデザインの採用選択は実際に身につけるU－23以下の選手に委ねることとした旨報告。また、若い人が買いたいと思うもの、女子ナショナルチームに兜（かぶと）はイメージとして如何なものかとの意見が出された。アシックス社の意向を再度確認の上、決定。

8. 春の全国中学生ハンドボール選手権について

資料により大会概要の説明。氷見実行委員会より「内閣総理大臣杯」の冠をつけたい旨要望があり、日本ハンドボール協会から申請書を出し手続きを行う。

9. 第3回日本車椅子ハンドボール競技大会について

資料により説明。日本ハンドボール協会は主催でなく後援で協力。

10. 大会派遣役員について

資料により全国大会担当者案について報告。国際試合については専務理事に一任。

11. 協会役員承認について

資料により説明。寄附行為理事枠20名に1名欠員、社会的認知や日本リーグのさらなる活性化を目的とし実業団所属西窪勝広氏の推薦提案、手続きとしては、評議員会了承のため、早急に書面表決をする。

12. 平成16年度日本協会表彰について

資料により平成16年度の表彰推薦者について提案、承認。

報告事項

1. 平成17年度日本協会組織図及び平成17・18年度日本協会役員について
2. 平成17年度及び平成18年度会議日程実について
3. 平成17年度国内・国際大全日程、大会結果、大会概要について
4. 国際大会スケジュールについて
5. 平成17年度第8回ハンドボール研究集会について
6. 第61回以降の国民体育大会について
7. トップレフェリー研修会について
8. 日本リーグと日本トップリーグ連携機構について
9. 女性委員会アンケートについて
10. 頑張れハンドボール10万人会について
11. 協会グッズ委託販売について
12. その他
1）ハンドボール記事収集について
2）一般のチームの国際交流について
3）事務局連絡

平成17年度
第1回競技者育成技術委員会

日　時：6月19日（日）
場　所：東京都体育館会議室
出席者：大西、水上、蒲生、村松、笹倉、兼子、川島（審判）、田中、冨田、栗山

議事

1．NTSセンター・ブロックトレーニングと指導者研修会の展開について

①NTSブロックトレーニングにおいてU・12のカテゴリー展開に違和感
②シミュレーション会議（5・21．22）の位置づけを重要視し、NTSトレーナー認定機能を持たす。
③各種セミナー、研修会開催について
④NTSブロックトレーニングにおけるレフェリー研修会開催については、モデルケースを今年度中に開催することを審判部で検討する

2．DVD作成について（教本作成も含む）

担当分担の提示。期日切迫、具体的な作業については、個々に依頼をしながら進める。

3．強化本部組織強化について

①エリートスタッフ養成部会の設置
②強化指定選手のリーグ参加について
③その他

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」7月入会・継続会員

【北海道】畑中　裕、藤澤賢治　**【岩手】**上川　正二　**【宮城】**千田文彦、加藤宏之　**【茨城】**出頭秀彦　**【栃木】**久保田　剛
【群馬】須藤隆男　**【埼玉】**田中　孝　**【千葉】**三井　信　**【東京】**河内鋭雄、安藤純光　**【神奈川】**平岡ステファニー
【山梨】天野盛夫、齋藤　實　**【富山】**藤井清勝、旅　和子、旅　文夫　**【福井】**村上重治　**【岐阜】**森川俊章、長谷川　正
【大阪】里村静俊、宮崎　寛、赤星　明、白鳥貴子、戸谷克蔵、中務敏男、奥浜　清、三好直樹　**【山口】**森田俊介
【佐賀】高橋洋治　**【長崎】**石井通義　**【熊本】**上野信行、松本惠子　**【鹿児島】**井料たか子

【9月の行事予定】

【会議】…………………………………………………………
9月10日（土）　常務理事会（東京）

「ハンドボール研究」2005年第7号が発刊されました

[講演]　体育学習における指導と評価　－ゲーム・球技の領域を踏まえて－
[実技研修]　教材としてのハンドボール
[授業提案]　みんなでつくろう　みんなで決めよう　ハンドボール!　他
[講義]　ボール運動教材としてのハンドボール
[体育授業部門]　デンマークにおける子供のハンドボール指導　他
[コーチング部門]　外傷・傷害予防を目的としたトレーナー・ステーションの設置　他
[研究資料]　ドイツの「ハンドボールトレーニング」最初の特別号より

販売価格　　1冊1,200円（送料無料）
購入申し込みは、（財）日本ハンドボール協会事務局（〒150-8050 渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館）まで、現金書留または郵便振替でお願いします。郵便振替は、郵便局備え付けの「払込取扱票」をご利用下さい（電信は不可）。
口座番号　00160－4－58348
加入者名　財団法人日本ハンドボール協会
通信欄に、「ハンドボール研究第7号」と明記、冊数、料金計算を記入し、ご依頼人欄にもれなく記入して下さい。

HAND BALL CONTENTS Sep

（登録チームの購読料は登録料に含む）

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール





HVN300

検定球3号、人工皮革
男子(一般･大学･高校)

HVN200

検定球２号、人工皮革
女子(一般･大学･高校)・中学校

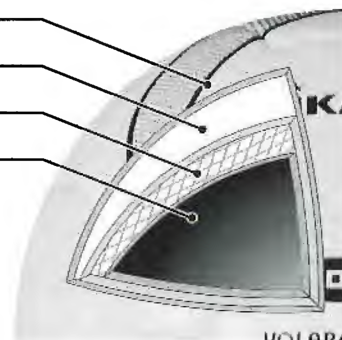
HVN300／HVN200の特徴

1 人工皮革
ソフトな触感と抜群のグリップ力を発揮するハンドボール専用の人工皮革

2 フォーム層
特殊フォームが衝撃をやわらげ、触感を向上させハンドリング性能が向上します

3 補強層
柔軟性と強度をあわせ持った特殊補強布が丸さとサイズを保ちます

4 ラバーチューブ
バルブ落下防止構造のラテックスチューブは、柔軟でリバウンド性能に優れます



株式会社ミカサ 〒733-0002 広島市西区楠木町3-11-2 TEL.082-237-5145 FAX.082-238-1252 www.mikasasports.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』第四六三号

昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可

平成十七年八月二十六日印刷　平成十七年九月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一

電話　代表〇三―三四八一―二三六一

振替　〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人　大西武三

定価　年間三三〇〇円